

日本の大大学教育について思うこと

工学研究科留学生 許 敏

您好！今日は！

1984年10月、私は中国政府派遣留学生として広島にやって来ました。日本への留学は長い間の夢でした。この夢を実現するために、一生懸命勉強し、数人の有力なライバルと競争しながら、4年間の忙しい大学生活を過ごしてきました。賑やかな東京に着いた時は、高度に発達した現代都市の風景に驚かされたと同時に、大きな不安とプレッシャを感じる複雑な心境でした。『これからはもっと厳しい戦いが待っているにちがいない』、『言葉もあまりわからぬし、難しい大学院の入試にも合格しなければならない』と、少し自信がなくなりました。



しかし、大学に入ってからは、日本の大学教育は中国の場合と大分違っていることに早く気がつき、不安も段々消えていきました。中国の大学では、学生の成績をすごく重視します。学生たちは良い成績を取ることを明確な目標としています。なぜなら、成績は自分の将来と直接に関連しているからです。先生も篩で分けるようにわざと難しい試験問題を出して、学生を成績で段階づけます。大学院の入試は、もっと難しいです。大学院生は

国から大学卒業生の初年給に相当する奨学金をもらえ、大学院を出たらもっと待遇がよくなるため魅力的です。もし大学院に落ちても、就職が入試の後ですから、就職ができます。そのため、大学院に入るための競争は非常に激しいです。中国では大学だけではなく、どこでも試験で選抜する習慣があります。多分、これは古代の『科挙制度』の影響と思われます。『はたして、人の能力をすべて試験だけで判断できるか？』という疑問もありますが、この習慣はなかなかやめられません。

日本の大学では、この現象はあまり見られません。私が日本に来てまもない頃、学部三年生の授業に出てみました。あの日は、まず遅刻した学生の人数に私はびっくりしました。授業の途中で、教室を自由に出入りする人もいましたし、外でたばこを吸ったりコーヒーを飲んだりする人もいました。先生も遅刻や休講することがたびたびあります。

ある日、先生が資料を配ったあと、一人の遅刻した学生が講台の前に行って、先生に資料を求めました。先生は冗談半分で、『時間は戻らないから、来年のこの時間にまたきてください。』と断りました。このような厳しい先生もおられました。

大学院の試験勉強の時、先輩からこう教えられました。『日本の大学院入試はいわゆる『考古学』みたいなもんで、前の五年間の試験問題を解ければ、絶対だいじょうぶだ。』と。結局、そのとおりでした。

授業や試験は必要ですが、それだけが大学教育のすべてではありません。日本の大学生は中国の大学生に比べると、あまりまとまらず授業に出ていないかもしれません。その代

わりに、授業以外の知識をたくさん勉強しているようです。特に、4年生になると全員研究室に配属されますが、この一年間の研究生生活はとても重要です。この間に実験や研究の方法、人との付き合い方、工具や機械と計測機器などの使い方、そして資料や文献の集め方などいろいろな能力を身につけるわけですが、これらは卒業後社会に出てすぐ役に立ちます。このような訓練の機会は、中国の大学では少ないです。

中国にいたとき、試験に強い私はいつも自信たっぷりでした。しかし、日本の大学院に入って間もない頃は、まわりの日本人学生たちが着々と実験を進めているのに私だけがなかなか進まなくて、初めて自分の能力の乏しさを感じました。

また、中国の大学の研究室の構成も日本と違います。中国では一つの研究室には、教授と副教授が数人、講師と助手が十数人もいます。実験室などには、実験担当技師もいます。学生には、勝手にはやらせません。日本の場合には一つの研究室に、教授、助教授そして

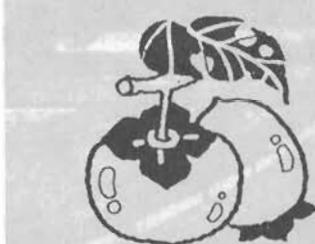
助手がひとりずついるのが一般的なようです。また、先生より学生が多いです。研究室によって多少ちがいますが私のいる研究室では、大体大学院生と4年生が組んで一つのグループになり、共同研究します。先生の指導はもちろん欠かせないですが、学生間の交流や互いに教え合うことは重要です。学生が多いから、先生が一つ一つ直接指導することは困難です。そこで、毎週一回のミーティングを開き、各グループが研究状況や予定を報告し、先生のアドバイスをもらったり、研究結果について討論したりします。

両国の大学教育制度には様々な相違点がありますが、それぞれ特徴をもっています。中国の大学生はよく勉強しますが、独自の研究能力の養成が足りません。その面では、日本の方が成功していると思います。

私はそろそろ帰国しますが、中国には日本で学んだ専門知識だけでなく、日本の教育制度の長所も持って帰り、中国の社会に最も必要な人材を養成するために頑張りたいと思っています。

両国の大学教育制度には様々な相違点がありますが、それぞれ特徴をもっています。中国の大学生はよく勉強しますが、独自の研究能力の養成が足りません。その面では、日本の方が成功していると思います。

私はそろそろ帰国しますが、中国には日本で学んだ専門知識だけでなく、日本の教育制度の長所も持って帰り、中国の社会に最も必要な人材を養成するために頑張りたいと思っています。



八一郎の教養